
電磁装甲兵ルルルルルル

関村俊介

登場人物

田中
川上
吉永
小柳
野口
加藤
兄（松浪兄）
弟（松浪弟）
青山

そこは基地の中だけど、街が一望できる場所。椅子とゴミ箱がある。
タナカが街を眺めている。薄く、工事現場的な音が聞こえている。
そこにカワカミが来る。しばらくタナカの様子を見てから。

川上 ……何？また見てるの？

田中 はい。

川上 誰もいない街。

田中 街じゃなくて、ロボットを見てたんです。

川上 あっそう。

建物が壊れる音。

田中 また壊しましたね。

川上 ビルくらい壊したっていいでしょ、誰もいないんだから。

田中 でも。

川上 どうせ敵が来たら壊れるんだし。

さっきと違うところから建物が壊れる音。

田中 それにしても、壊しすぎじゃないですか？

川上 いいじゃん、逆に爽快だよ。

田中 街がなくなっちゃいますよ。

川上 平和ね。

田中 街がどんどん壊れてるのは平和ですかね。

川上 敵が来てないんだから、平和なのよ。

また違うところから建物が壊れる音。

田中 あの人たちロボットの操縦ヘタクソじゃないですか？

川上 いいんだよ、まだ訓練中なんだから。

田中 でも。

川上 私は今の3人でベストだと思ってるから。

田中 そうですかねえ。

川上 うるさいなあ。ヘタクソだから練習してるんだよ。そのうち上手になるんだよ。

田中 だったら、俺でもいいじゃないですか。

川上 えー？もしかして、まだあきらめてないの？

田中 はい。

川上 ロボット乗るの？

田中 はい。

川上 引くわー。

田中 引くことないでしょ。

川上 ドン引きだよ。しつこい。気持ち悪い。臭い。

田中 言い過ぎですし、臭い関係ないでしょ。

川上 ごめん、臭いは関係なかったね。

田中 …えー？俺、臭くないですよね？

川上 うん、臭くない。

田中 びっくりしたー。

川上 あきらめないのは勝手だけどさ。これ以上しつこいと、わずかながらに残ってるチャンスも失うことになるよ。

田中 チャンスって？

川上 ロボット乗るのが嫌になって誰かやめちゃった時とかさ。

田中 なるほど。

川上 私のご機嫌を損ねないほうが、得だとは思わんかね。

田中 はい。でも、俺には何が足りないのかだけ教えてくださいよ。努力しますから。

川上 タナカくんがどうかじゃなくてさ。あの3人には何かがあるじゃない。

田中 何かってなんですか。

川上 アオヤマちゃんは天才だし。

田中 天才のわりには、一番街を破壊してますよ？

川上 でもあの子、天才なのよ。

田中 どこがどう天才なんですか。

川上 まあとにかく天才なのね。

田中 根拠がないじゃないですか。

川上 マツナミ兄弟は、言うまでもなく、ロボットに乗せるべき人材じゃん？

田中 だから根拠。

川上 ちよっと待って。

田中 なんですか？

川上 最高司令官よ？私。

田中 知ってます。

川上 タナカくん、最高司令官の私が選んだパイロットにケチつけてんの？

田中 そういうわけじゃないですけど。

さっきとはちょっと違う、建物が壊れる音。

川上 あぶない。壊れるところだった。

田中 今更、どうしたんですか。もう散々、壊してるじゃないですか。

川上 や、ヴァニティタワーだけはね。

田中 え？

川上 ヴァニティタワーだけは、壊されたくないからさ。

田中 あれって、なんか重要な施設なんですか？

川上 そういうんじゃないって、個人的にね。

田中 なんか、思い出とかあるんですか？

川上 子供の時の話なんだけど。自転車に乗れるようになった時ってさ。

田中 はい。

川上 世界が広がったような感じがするじゃない。

田中 しますね。

川上 それで調子に乗ってさ、どこまでも行ったら。迷子になっちゃったのよ。家がどっちにあるかも、わかんなくてさ、私、泣いちゃって。

田中 はい。

川上 泣きながらさ、交番に行ったらさ、教えてくれたよね、家。

田中 ……ヴァニティタワーは!?

川上 え?

田中 ヴァニティタワーの話じゃなかったんですか?

川上 じゃなかったね。

田中 ええ?

川上 思い出とかあるんですか。って言うから。適当な思い出を作ってみただけ。

田中 しかも作り話ですか。

川上 自転車とか、今でも乗れないし。

田中 どうでもいいです。

川上 かわいくない？

田中 まあ、ちよつとかわいいですね。

川上 でしょ。

田中 そんなことはどうでもいいんですよ。

川上 だって、私、こころへんの出身じゃないし。無いよ、ヴァニティタワーの思い出なんか。

田中 そうですか。

川上 ないけどさ。あんな立派な塔はさ、残しておきたいじゃん。

田中 はい。

川上 ね。

田中 俺はあるんですよ、思い出。

川上 自転車の？

田中 ヴァニティタワーのです。

川上 ああ。この街に住んでたんだっけ。

田中 はい。小学校3年の時にですね、

川上 あ、いいよ、語らなくて。

田中 え？

川上 そんなに興味ないから。タナカくん。

田中 いやいや。聞いてくださいよ。

川上 じゃあどうぞ。

田中 小学校3年の時に、この街に引っ越してきたんですけど。友達とかもできなくて、毎日、前にいた小学校に戻りたいなあ、って思ってた。この街のこともそんなに好きになれなくて。一学期が終わって夏休みになって。

川上 うん。

田中 そしたらある日、クラスメイトがうちに来て、あの塔にエレベーター使わないで、登ろうぜ、って誘ってくれて。

川上 自転車で？

田中 階段で、です。自転車の思い出じゃないって言いましたよね？

川上 そうだっけ、で？

田中 で、登って、展望台について。そこから、街を見下ろしてたら、急に、この街のことが好きだなあ、って思っただけです。

川上 で？

田中 そういう思い出です。

川上 で？

田中 だから、バニティタワーだけは壊さないようにしてくれてる、って話が、ちょっと嬉しかったです。

川上 あっそう。で？

田中 終わりです。

川上 終わりなんだ。語ってる間に、その大事なヴァニティタワーも壊れちゃったけど、今の心境は？

田中 え？

川上 ぶつかっちゃったねえ。残念。

田中 なにしてんだよ。

川上 あの塔だけは残しておいて、敵に壊してほしかったのに。

田中 ええ？

川上 いや、しかし、こりやいつ敵が来ても大丈夫だな。

田中 どこですか、やっぱりあの3人より俺のほうがパイロットに向いてますよ。

川上 や、そういうことじゃなくて。

田中 どういうことですか。

川上 あんだけいろんな建物にぶつかってんのに、傷ひとつ付いてないじゃん。これだけ頑丈だったら、

敵が来ても、まず負けないでしょ。電磁装甲兵ルルルルル。

オープニングテーマがかかって。

カワカミは笑ってて、タナカは茫然としている。

ゆっくりと暗くなってって、暗転。

明るくなると、ヨシナガとコヤナギ。ゴミ箱にジュースの缶を捨てる。

ヨシナガはオープニングテーマを唄っている。キリのいいところで。

小柳 なに？その歌。

吉永 テーマ曲。

小柳 なんの？

吉永 ロボットの。なんか偉い人に頼んで作ってもらったらしいよ。

小柳 そんなの作ったんだ。

吉永 ロボットにテーマ曲は、普通、あるからね。

小柳 普通とかないけどね。

吉永 どういうこと？

小柳 世界初の巨大ロボットなわけだからさ。

吉永 だから？

小柳 普通とかないよね、前例がないわけだから。

吉永 ちよつとよくわかんないけど。

小柳 わかって。これくらいは。

吉永 じゃあ、わかった。

小柳 わかってないよね？

吉永 わかってない。

小柳 まあいいか。

吉永 でもさ、似合ってるでしょ？曲。

小柳 あれに？

吉永 そう、ルルルー！。

小柳 ルルルルルルね。

吉永 ル、何個だっけ？

小柳 7個。いい加減、覚えたほうがいいよ？

吉永 何個だっていいじゃん。

小柳 よくないでしょ。意味があるんだから。

吉永 あるの？

小柳 3体のマシンが、合体して、あれになるわけよ。

吉永 それは知ってる。

小柳 1号機と2号機と4号機が合体するから、合わせて。

吉永 1と2と4が合体して、7ってことか。

小柳 そう。足し算はできるんだね。

吉永 分数の足し算は、できないけどね。

小柳 できないのかよ。

吉永 なんで3号機は無いのかね。

小柳 ヨシナガには絶対、理解できないと思うけど。説明したほうがいい？

吉永 コヤナギ。

小柳 なに？

吉永 理解してみせる。

小柳 ああ、そう。

吉永 説明してみて。

小柳 2進数って覚えてる？

吉永 ギブアップ。

小柳 早い早い早い。

吉永 聞いたこと無いもん。2進数。

小柳 中学校くらいで習ったはずだけど。

吉永 歴史の時間に？

小柳 数学だわ、絶対に数学。

吉永 そう、まあいいや。それで2進数が？

小柳 先に進めないよ。2進数わかんなかったら。

吉永 そこをなんとか、うまく説明してよ。

小柳 えーと。あれさ、2体でも合体できるじゃん。

吉永 そうね。

小柳 で、もし、1号機と2号機と3号機だったら。1と2が合体した時も3になっちゃうから。

吉永 3が2つになっちゃうね。

小柳 そうなの。だから、1と2と4にしてあるわけ。

吉永 でも、見た目で区別つくよね。

小柳 そうだけど。呼ぶ時にね。

吉永 なるほど。

小柳 まあ、なんで、ルの数で言わなきゃいけないのかは謎だけだね。

吉永 それで3号機はないのか。

小柳 そうなの。

吉永 3号機ないの気持ち悪くないのかな。

小柳 気持ち悪くはないね。

吉永 私は、そういうの気持ち悪いわー。

小柳 そう。

吉永 1と2が合体した時は12にすればいいのにね。

小柳 え？

吉永 だから、1と2が合体したヤツはさ、1と2で12でいいのにね。

小柳 12？

吉永 そう、ルルルルルルルル。

小柳 斬新。1と2で合わせて12、斬新。算数の根本を揺るがしたね。

吉永 どうか？

小柳 大変だからダメだろうね。

吉永 大変かな？

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

電磁装甲兵ルルルルルルル（おためしサンプル）

2014年6月8日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2014年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
